

## 4. 消費者・商店街・行政の協働による地域将来像の策定

【中心市街地活性化検討会議（雄武町）】

### (1) 地域の課題

雄武町の中心商店街は、近隣市町村への郊外型大型店の進出やネット販売等の影響で購買が流出し、商店街の来客者が減少しています。最盛期に比べ大幅に売上が減少した商店が大半を占め、後継者がいない店もあり、廃業を視野に入れた企業活動をしている商店も散見されます。

### (2) 研究グループの目的

商店街活性化について検討を深め、コミュニティビジネスを構築することにより消費者と商店街との距離を縮め地元での購買機会を増やす。

地域のコミュニティ維持の為には商店街が不可欠であると再認識し、消費者・商店街・行政が同じ目線に立って、将来の地域ビジョンを構築する。

### (3) 研究グループの構成員

- ・実施主体：雄武町商工会
- ・商業者：大通り商店街協同組合、錦町商店街、Aコープ雄武、ポイントカード会
- ・消費者：主婦
- ・金融機関：稚内信金、北見信金
- ・関係団体：雄武漁協、北オホーツク農協
- ・行政機関：雄武町（企画調整、商工観光）

### (4) 研究グループの検討内容

研究会では、住民から見た商店街への意見や指摘を踏まえ、新たなサービスによる魅力向上に向けて、ビジネスモデルの構築と事業計画の策定に取り組みました。

#### ○地域住民から見た雄武町の商店街

- ・中心商店街の取組経緯と状況の説明
- ・中心商店街に関しての意見や指摘

#### ○商店街が考える新サービス

- ・新サービスの方向性（ローコスト事業）
- ・ローコスト事業の実践例の紹介
- ・中心商店街に必要なサービスの検討

#### ○こうすれば商店街がもっと魅力的になる

- ・消費者と店主の意見交換で活性化事業を構築する「消費者懇談会」の検討

- ・提案された事業をコミュニティビジネスの視点で評価し、モデル候補を討議

#### ○ビジネスモデル構築

- ・情報発信事業と消費者参加型イベント（屋台村をモデルとする方針を確認）
- ・両事業の費用対効果を検証
- ・消費者懇談会の実施を検討

#### ○商店街活性化事業計画策定

- ・町総合計画などとの整合チェック
- ・商店街活性化事業3カ年計画策定
- ・新年度に向けた体制づくり

### (5) 研究会の検討課題を踏まえた取組

コミュニティビジネスは、中程度の効果が期待される事業をローコストではじめなければ継続が難しいこと、企画段階から消費者に参加してもらうことが有意義であることから、25年度のビジネスモデルとして「おうむの屋台村」を企画し、住民目線での意見を伺うため、消費者懇談会を開催しました。いただいた意見をもとに「おうライス」コンテストの実施や商店街への回遊を促すクーポン券の配布など、多くの方が楽しめる事業となりました。

### (6) 今後の事業展開

消費者懇談会の継続など住民が積極的に事業へ参加できる工夫や目玉企画の充実を図るとともに、「愛♥（ラブ）おうむカード」の推進、店主の商売に対する意向調査などにも取り組み、地域の将来ビジョンを深めてまいります。

#### <専門家からのアドバイス>

- ・コミュニティビジネスは収益性が少ないが、一部を活性化資金として捻出することが理想的です。
- ・そのためには、関係機関の協力が必要で、信金など地域金融機関を活用しながらビジネスモデルを構築・運営していくことが望ましいです。

【㈱オフィスいわい 岩井 護 氏】